

家事に関する簡易報告

生活意識調査から

加茂 みどり

Written by Midori Kamo

当研究所では、2008年2月、「住まいとライフスタイルに関する生活意識調査」を行った。本稿では、その中の家事に関する調査について報告する。

■調査概要

調査地域は全国とし、21歳～72歳の男女1138人に質問表を配布し、964人から回答を得ている。調査期間は、平成20年1月18日から同年2月12日であった。

自分がしている家事の割合

調査では、家事を「食事の準備や片付けなどを含む炊事（以降「炊事」）、「日常の買い物」（以降「買い物」）、「住宅室内や敷地内の掃除」（以降「掃除」）、そして「衣服や寝具などの洗濯」（以降「洗濯」）の四種に分けて質問を設定している。また回答は、男女の年代別に集計を行っている。それぞれについて家庭の中で自分が行っている

家事の割合を聞くと、いずれの家事も、二〇代では男女とも六〇％前後が「ゼロ〜二割」と答えており、ほとんどしていない。同時に二〇代では、男女の負担率は変わらない。しかし三〇代以降、顕著に女性の負担割合が高くなる。特に炊事・洗濯は、女性の六六・七％～八五・五％が「九〜一〇割」と答えている。

自分がしていない分の家事をする人

自分がしていない分の家庭の家事を誰が担っているのかを聞くと、男女とも二〇代は、七〇％以上が実母と答えている。
三〇代以降は、男女とも配偶者、特に男性は配偶者割合が高く、八〇％前後となる。しかし三〇代男性は、いずれの家事も三五〜四〇％が実母と答えており、いわゆる「パラサイトシングル」の存在を感じさせる結果となっている。

家事の負担感（図1）

家事に対する負担感を聞くと、男女とも二〇代は、ほとんど家事をしないせいか、あまり負担に感じていない。しかし三〇代、四〇代になると女性の家事負担感が大きく、特に炊事では、三〇代女性の五〇・五％、四〇代女性の五〇・四％が「とても負担に感じ

ている」または「少し負担に感じている」と答えている。掃除に関しては、四〇代女性と五〇代女性の負担感が大きく、それぞれ四八・二％、四七・三％が負担に感じている。それに対し、洗濯と特に買い物は負担感が少ないが、二〇％～三〇％が負担に感じている。

もっと家事を分担してほしい人

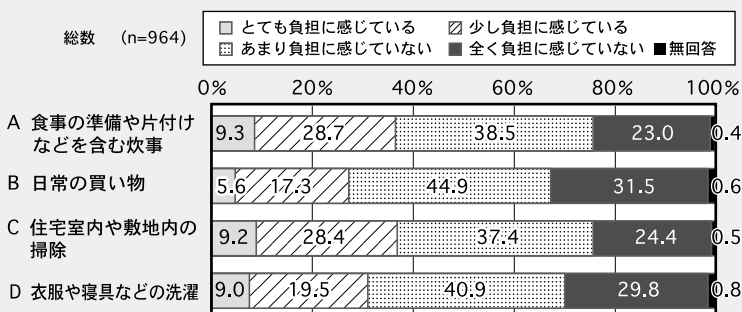
もっと家事を分担して欲しいと思うのは誰かを聞くと、男性と女性の二〇代に関しては、七〇％～八〇％が「現状のままよい」と答えている。三〇代以降の女性も約半数は、「現状のままよい」と答えているが、配偶者や子と答える割合が高くなる。特に家事の負担感の高かった炊事や掃除に関しては、年代によっては五〇％近い女性が配偶者をあげている。

お手伝いさんや外部サービスによる家事負担希望はかなり少数であるが、比較してその中で少し多いのが掃除であった。

家事サービスの対する希望

家事に関して外部サービスの利用意向を聞くと、約一七％が利用意向を持っていた。

図1 家事の負担感



利用するための条件としては、費用が安いこと、満足できるサービス内容であること、プライバシーとセキュリティが確保できることが多く、それぞれ七六・二%、五三・七%、三九・〇%であった。そして、家族が賛成してくれるなら、が一三・四%と続く。

利用意向のない人に、利用をためらう理由を聞くと、必要がないこと、費用がかかること、第三者が家の中に入ることに對する抵抗感があげられ、それぞれ六六・九%、四七・七%、三七・三%であった。

利用したい人がサービスを利用するためには、費用や内容の他に、セキュリティ・プライバシーへの配慮が必要だと考えられる。また利用条件として家族の賛成、また、利用をためらう理由として第三者が家の中に入ることに對する抵抗感をあげるのには、男性よりも女性の方が高い。

子育てをする割合

子育てへの参加割合を聞くと、男性の約五〇%は「ゼロ〜二割」、女性の約五〇%は「九〜一〇割」と答えており、男性の参加率は家事よりは高いとはいえ、まだまだ低い。自分がしていない分の子育てを誰が負担しているのかを聞くと、男性は、ほとんどが「配偶者」と答えている。女性は二〇〜四〇代で六八三%〜八七五%が「配偶者」と答えているが、「実母」と答える割合も二二・〇%〜五〇・〇%ある。

子育ての負担感

子育ての負担感を聞くと、家事ほどの負担感ではないものの、二二・二%が負担に感じている。特に女性の二〇〜四〇代では二五%以上が「とても負担」ま

たは「少し負担に感じている」と答えている。

もっと子育てを負担して欲しい人

もっと子育てを負担して欲しいと思うのは誰かを聞くと、男性は「現状のままが良い」と答えるのがほとんどであるのに対し、女性は各年代で三七・五%〜四八・六%が配偶者をあげており、やはり男性に對する女性の負担感の大きいことが感じられる。

子育てサービスに対する希望

子育てに関して外部サービスの利用意向を聞くと、一八%が利用意向を持っていた。

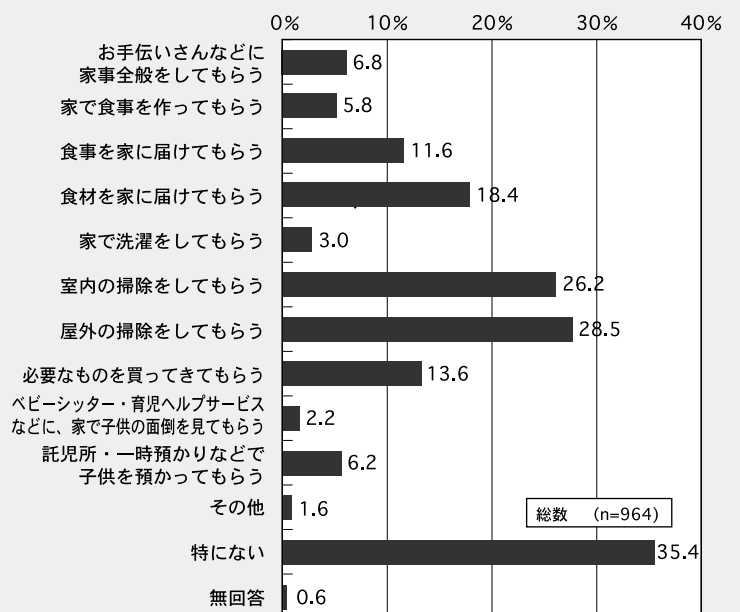
利用するための条件としては、費用が安いこと、満足できるサービス内容であること、プライバシーとセキュリティが確保できること、と家事と同じ順であげられ、それぞれ六八・四%、五二・六%、二八・九%となる。

しかし、利用意向のない人に、ためらう理由を聞くと、必要がないこと、費用がかかることに、子育てではできるだけ親がした方がよいことが続き、そして第三者が家の中に入ることに對する抵抗感があげられ、それぞれ六五・五%、四三・五%、三七・五%、二二・六%となる。

利用したいサービスの内容(図2)

もし、家事に関する外部サービスを利用するなら、どのようなサービスを利用したいかを聞くと、屋外の掃除、そして室内の掃除というものが多く、それぞれ二八・五%、二二・二%となる。次に食料

図2 利用したいサービス



を家に届けてもらうが一八・四%、次に、必要なものを買ってきてもらうが一三・六%となる。それぞれの希望割合を男女別に見ると、総じて女性の方が希望は多い。

家事や子育てに関しては、やはり女性の負担率や負担感が男性よりも大きいことが確認できた一方で、外部サービスの利用や利用意向は大きいとはいえず、家事や子育てに對してサービスが普及しているわけではないことがわかった。その利用を阻む理由として、費用や内容の他に、セキュリティやプライバシーの確保についても課題のあることがうかがえる。

(大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 主任研究員)

